



# Good News for Japan **とぎのこえ**

平成二十七年九月一日発行  
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行



来日した翌年に撮影した写真(明治29年)

## 9月22日は、日本における救世軍 120周年記念日です

「行つて、その国民を愛せよ。……行つて戦い、苦しみ、忍び、また、たびたび涙を流さねばならない、しかも、直ちに涙をぬぐつて人々の中に出て行かねばならない。」  
救世軍の創立者ウイリアム・ブースは、日本に派遣される士官(伝道者)たちのロンドンでの送別会で、こ

ジョイ  
**JOY!**  
喜び満ちあふれる救世軍

勝地 次郎

「わたしたちはこれより日本人の家に住み、日本人の衣服を着、日本人の食物を食べ、全く日本人同様になつて、この国のために主の救いを宣べ伝え、大いに尽力いたします。わたしたちは特に、貧しい人々のために尽力したいと思つてい

う言いました。  
「行つて、その国民を愛せよ」の言葉どおり、彼らは日本人を愛し、日本人に同化し、魂の救いと社会奉仕の働きに献身しました。彼らの働きから始まった日本における救世軍は、今年開設百二十年を迎えています。

「……用いた楽器は、バイオリン、コルネットというラッパ及び手風琴(コンサチーナ)で、メロデーはすべて快活、勇壮で楽しいもの……」  
そうです! 救世軍は、富める人にも貧しい人にも分け隔てなく仕え、困難、

試練の中でも、喜びの歌を歌いつつ前進する、神の軍隊なのです。  
私は、救世軍で信仰をもつて間もない頃、青年を対象とした救世軍のセミナーに参加しました。ある集会の中で、海外から日本に派遣されている士官(伝道者)夫妻が、二重唱をしました。彼らが、「ジョイ! ジョイ! ジョイ! ジョイ!……」と力強く歌い始めた時、私の心に明るい喜び(ジョイ)が湧き上がってきました。「喜び満ちあふれる救世軍」という題のその歌を通して、神を信じる人に与えられる喜びの世界が高らかに歌い上げられていたからです。

「王をたたえよ。嘆き祈るわたしの声を聞いてくださいました。主はわたしの力、わたしの盾  
わたしの心は主に依り頼みます。  
主の助けを得てわたしの心は喜び躍ります。歌をささげて感謝いたします。」(詩編28編6、7節)  
謹んで震災のお見舞いを申し上げます。  
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

聖書には、次のような歌があります。  
「王をたたえよ。嘆き祈るわたしの声を聞いてくださいました。主はわたしの力、わたしの盾  
わたしの心は主に依り頼みます。  
主の助けを得てわたしの心は喜び躍ります。歌をささげて感謝いたします。」(救世軍士官(伝道者)・司令官)

ここには、神を信じ、その福音に与つた人の告白があります。  
「心は神に 手は人に」  
(Heart to God Hand to Man)  
をモットーとして進められてきた、百二十年に及ぶ日本における救世軍の歴史は、嘆きの心が喜びの心に変えられた多くの人々の歴史とも言えるでしょう。  
使徒パウロもこう言っています。  
「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい、どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」(テサロニケの信徒への手紙一 5章 16-18節)  
キリストを知り、キリストの愛に触れる時、あなたも、きつと、喜び、祈り、感謝する人生に導かれていくことでしょう。  
救世軍の働きを進めるために、今年も感謝祭募金をおこなっています、皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

〈信仰の体験談〉

# 神様の不思議なお導きのもとに



北海道遠軽町のシンボリックな存在「がんぼう瞭望岩」



阿部 秀子

## 突然の出来事

私は今、救世軍と出会うことができたことを、大変幸せに思っています。そのきっかけが、夫の死でした。

**突然の出来事**

夫は放射線技師として病院に勤めておりましたが、平成七年一月、体調不良を訴えて検査入院。肺腫瘍が見つかり、その三カ月後の平成七年四月二十五日に召されました。

突然のことので、心の準備もない中でしたが、生前の夫の言葉を思い出しました。

「私の信仰は救世軍。」

そして、クリスマスには大きなクリスマスツリーを家に飾り、近所の子どもたちを集めてクリスマス会を開いていたこと等を思い出して、すぐに、救世軍遠軽小隊教会にあたるに電話をしました。夫の実家が遠軽小隊小隊向分隊（伝道所にあたる）に所属していたからです。

ただ、夫は、紋別の家から五〇キロ離れた遠軽小隊で礼拝を守っていなかったもので、名簿に名前が載っていませんでした。また、小隊長（牧師にあたる）は三月末に赴任したばかり。突然の葬儀の依頼にさぞかし驚いたことと思いますが、すぐに駆けつけてくださいました。そして、温かいご配

## 信仰の継承

夫の意思を引き継いだ私は、遠軽小隊に出席する決心をして、礼拝で説教を聞き、聖書を学び始めました。その中で、目には見えない神様の力、愛と恵みを受け、神様に信頼し、従うことの幸いを実感することができました。そして、神様に、どこまでも従っていこうと決心しました。

夫の墓の墓石には「信・望・愛」の文字と、その横に「主の祈り」を彫りました。クリスチャンのお墓ではどうお参りすればいいかわからない、という方々も、それを読んで祈ってくださいるので、良い証しになっている、と感謝しています。

やがて、小隊長の話や「ときのかえ」などを通して、救世軍の歴史と、この働きが世界百二十以上の国と地域に広がっていることを知り、その救世軍に連なっていることを誇りに思うようになりました。

「心は神に、手は人に」というのが救世軍のモットーです。この言葉を受け入れ実行できるように、と祈っています。今は、聖日を守ることを第一に、日曜日の

## 現在の働き

私は、長年保健師として働いてきました。その関係で、平成二年三月に道立紋別保健所を定年退職後も、民生委員や児童委員を今日まで続けています。その他、更生保護女性会、西紋地域介護認定審査会委員、紋別市身体障害者相談員、地域保健推進委員会会長、紋別市社会協議会地域福祉実践計画策定委員、国際ソロプチミスト紋別など、様々な医療福祉のお役を仰せつかっています。

また、平成二十一年から、ジヤイカJICA（国際協力機構）の事業の手伝いをするようになり、毎年、旭川医大に JICA より、開発途上国からの十三〜十五人の医師、看護師、行政官が研修に来ます。三年ほど前の出来事ですが、その年も医大バスで JICA の一行が紋別に一泊二日の研修に来ました。その時、自己紹介で



アフリカ地域の保健担当の方たちと

「私は英国に本部のあるキリスト教会・救世軍の遠軽小隊に所属して活動しています」と伝えました。すると、アフリカから出席していた方が、

「自分の国では結核がはやっています。救世軍から贈られたエックス線バスが結核対策等で使用されています」と話され、出席者から大きな拍手をいただきました。

世界に広がる救世軍の働き、神様の大きな愛と恵みが、遠くアフリカまで届いていたことを知り、感激し、神様を賛美しました。

### 神様の不思議なお導き

私は、昭和十九年二月に、母の反対を押し切って、国立北海道第二療養所看護婦養成所を受験し、入学しました。

昭和十九〜二十年頃は、南洋諸島から負傷兵が室蘭港経由で病院に搬送されるようになり、深夜になると B 29 の飛来で、睡眠も十分に取れない状況でした。先輩に召集令状が来て従軍のため見送ったこともありました。私自身も、昭和二十年九月に繰り上げ卒業することにになり、従軍看護婦として、出征の予定でした。

しかし、その直前の八月十五日に終戦となり、九死に一生を得ました。

その後、保健婦としての学びのために保健婦科に入學、卒業。先に述べたような働きを続けてきました。今日までの出来事を思い返す時、救世軍と出合う前から、不思議な神様のお導きとお取り扱いがあったことを、感じております。



昭和 31 年、26 歳の時

### 救世橋 架橋百周年記念

今年七月、遠軽町では、救世橋架橋百周年の記念行事がおこなわれました。「救世橋」という名前は、当時、救世軍遠軽小隊の小隊長が多大な犠牲を払って橋をかけたことから、付けられました。何度か橋が架け替えられ、現在は五代目の永久橋となっています。

遠軽小隊では、この架橋百周年を記念して、小隊を挙げて記念行事を計画しました。一年以上前からプロジェクトを立ち上げて会議を重ね、関係機関との連携を模索し、信徒一人ひとりが、準備等それぞれの役割をしっかりと果たしました。神様は必要をすべてご存じで満たしてくださり、三日間にわたる記念のイベントを、すべて祝福してくださいました。

そのイベントの中のひとつ、「記念講演会」で、救世橋を架けた小隊長田中弥三郎大尉のご息がお話をされました。その話を通して、今から百年前、開拓者として遠軽に移住し、大きな苦勞を重ねられた先達の方々と田中大尉との深いきずなを覚えさせられました。この地域住民との結びつきにより、架橋という偉業が達

成されたのです。そして、「地域の子どもたちのことを一番に考えて橋を架けた」との田中大尉の思いを知りました。一人の人の一念が、地域の人々を動かし、実現させた背後に、神様の御力が働いたことを、感謝をもつて受け止めました。

### そしてこれから

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書 11 章 28 節) これは、神様の独り子

エス・キリストの言葉です。神様はこのイエス・キリストを、私の身代わりに十字架につけて、私の罪を赦してくださいました。

私は、このすばらしい神様の御業を後世に伝えるとともに、純粋な信仰の継承と遠軽小隊の形成を願ひ求めています。この働きを支える大きな柱が与えられますように、地域に根ざした救世軍の活動が続けられますように、心より祈っています。

(遠軽小隊(教会)所属)

### 救世橋

遠軽町の瀬戸瀬地区と栄野地区を結ぶ橋。初代の橋は一九一五(大正 4)年に架けられました。

当時、この二つの地区は渡し舟でしか往来ができず、冬の凍結期や春の雪解けによる増水時など度々休船していたため、住民の生活に大きな支障をきたしていました。



この窮状を知った救世軍遠軽小隊(教会にあたる)の士官(伝道者)田中弥三郎大尉が、橋を架けることを決心します。最初はなかなか住民の理解を得られませんでした。田中大尉はあきらめることなく、私財を投げ打って大工、石工たちを雇い、架橋作業を続けていきました。こうして、三カ月の月日を費やして木造の橋が完成しました。子息の兄一氏によると、入植後間もない開拓民の子どもたちの教育への熱情と配慮が、その動機でした。

その橋は、田中大尉の偉業を覚えて「救世橋」と名づけられました。この初代の橋は、一九一九(大正 8)年の洪水で流失しましたが、その後、三回架け替えられ、現在は五代目の立派な永久橋となっています。その間、一貫して「救世橋」の名が残ったのは、一人の伝道者の「橋を架ける」という壮大なビジョンと献身的な働きを記憶し、記念としてきたことの証しであると思われま

裏  
この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

キトリ

ご住所

ご氏名

□ 私の近くの救世軍を紹介してください。

□ キリスト教についてもっと知りたいです。

□ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp

# 救世軍 感謝祭募金

2015 秋 9.15-30.

各地から収穫の便りが届き、実りの秋を迎えました。救世軍では、この時期、豊かな実りを与えてくださる神様の愛に感謝しつつ、「救世軍感謝祭募金」をおこないます。救世軍の活動を通して、様々な人々のニーズに応えるために、信徒自らが献金するとともに、地域の商店や事業所、家庭を訪問して、募金をお願いしております。また、下記の最寄りの小隊、施設等で直接お預かりすることもできます。皆様のご協力をお願いいたします。

**2014 年～ 2015 年前半 募金結果報告**

<b>2014 年</b>	
克己週間 (3～4月)	17,694,149 円
感謝祭 (9月)	17,731,223 円
社会鍋 (12月)	19,606,618 円
<b>2015 年</b>	
克己週間 (6月8日現在)	16,574,065 円

皆様のご協力で心から感謝いたします

## 救世軍とは

The Salvation Army

プロテスタントのキリスト教会で、九月一日より、スロバキアでの活動を開始し、世界百二十七の国と地域で福音を伝えています。創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウイリアム・ブース。一八六五年、東ロンドンの貧しい人々に神の愛を届けようとして、働きを始めました。そして、人々の様々なニーズに迅速にこたえるために、軍隊流の組織をとりました。伝道者や信徒は制服を着用し、救世軍に属するクリスチャンであることを表明します。そして、礼拝を守るとともに、自分にできる奉仕―病院や施設でのボランティア、街頭生活者への給食や日用品配布、災害被災者支援など―をおこなっています。

また、創立時よりアルコール依存症で苦しむ人々の回復を支援していることから、アルコール抜きのライフスタイルをとっています。

日本で救世軍の働きが始まったのは、一八九五(明治28)年。今年、百二十周年を迎えました。開設当初から、刑を終えて出てきた人々の保護や職業訓練、災害被災者支援、廃娯運動の推進、子どもの保護など、社会福祉史に先駆者としての役割を果たしてきました。現在は、下記の小隊(教会にあたる)や施設、病院で働きを進めています。

国際的な組織の救世軍は、その協力体制をフルに生かして、災害被災者支援、人身売買犠牲者支援や開発途上国の自立支援、フェアトレード(公正貿易)の推進なども積極的におこなっています。特に今年には全世界の児童の教育の機会拡充を求める署名運動に取り組み、全世界から集められた百万人を超える署名が、今月おこなわれる国連の会合に提出される予定です。

二〇一一年の東日本大震災の被災者支援、被災地復興支援も、継続されています。引き続き長期化する避難生活や、行政等の手の届きにくい働きへの支援のため、各地での聞き取り調査にも取り組んでいます。

救世軍がおこなう様々な活動のために、毎年、克己週間(三月～四月)、感謝祭(九月)、社会鍋(十一月、随時)などの募金をおこなひ、広く協力を呼びかけています。



宮城県女川町の夏のイベントに協力

## 全国の救世軍小隊 (教会にあたる)

- 北海道連隊 (地区)**
- 遠軽小隊 釧路小隊 帯広小隊 札幌小隊 函館小隊
- 関東東北連隊 (地区)**
- 仙台小隊 浪江小隊(現在休止中) 若松小隊 新潟小隊 前橋小隊 高崎小隊 桐生小隊 佐野小隊 熊谷小隊
- 東京東海道連隊 (地区)**
- 川口小隊 清瀬小隊 西新井小隊 江東小隊 上野小隊 神田小隊 京橋小隊 月島小隊 麻布小隊 渋谷小隊 杉並小隊 大森小隊 横浜小隊 清水小隊 静岡小隊 浜松小隊 名古屋小隊
- 西日本連隊 (地区)**
- 京都小隊 天満小隊 西成小隊 泉尾小隊 神戸小隊 岡山小隊 福山小隊 呉小隊 広島小隊 高松小隊 高知小隊 八幡小隊 福岡小隊

## 社会福祉施設

- 保育所**
- 北海道 桑園保育所 菊水上町保育園 札幌市しせいかん保育園
  - 栃木県 佐野保育園
  - 広島県 呉保育所
- 児童養護施設**
- 東京都 機恵子寮 世光寮
  - 大阪府 希望館
  - 広島県 愛光園 豊浜学寮
- 婦人保護施設**
- 東京都 婦人寮 新生寮
- 宿泊施設 (男子)**
- 東京都 自助館 新光館
- 特別養護老人ホーム**
- 東京都 恵泉ホーム 恵みの家(ユニットケア型)
- ケアハウス**
- 東京都 いずみ(恵泉ホーム併設) (併設: ホームヘルパーステーションいずみ)
- 老人保健施設**
- 東京都 ブース記念老人保健施設グレイス (併設: 杉並区地域包括支援センター「ケア24 和田」、ブース記念ケアマネージメントセンター和田、ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ)
- アルコール依存症者支援施設**
- 東京都 自省館(救護施設)、男子社会奉仕センター

2つの常設バザー場

- バザー場……東京都杉並区和田 2-21-2 オープン 毎週土曜 9～14時 TEL. 03-5860-2992
- 江東出張所…東京都墨田区太平 4-11-3 オープン 毎週土曜 10～15時

## 病院

— 両病院とも、(財)日本医療機能評価機構認定病院です 清瀬病院は、病院機能評価付加機能(緩和ケア機能)認定も取得

- 救世軍ブース記念病院 (ホスピス併設) 東京都杉並区和田 1-40-5 TEL 03-3381-7236
- 救世軍清瀬病院 (ホスピス併設) 東京都清瀬市竹丘 1-17-9 TEL 042-491-1411

発行所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営

電話 東京(03)3337-0881 東京(03)3337-0881 東京(03)3337-0881

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番一〇〇五

編集人 齋藤 恵子 印刷兼 代表者 勝地 次郎

発行日 毎月一日・十五日

定価 一日号一部五〇円(〒六〇円) 十五日号一部六〇円(〒六〇円) クリスマス特集号(十二月一日号)一部一〇〇円(〒七〇円) 一年分(三三〇円)送料七五〇円 振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません